



和太鼓部が「恋歌」で芸文祭優勝

高知総文祭出場へ 和太鼓部名誉顧問

数年前まで、本校和太鼓部は大阪府高校芸文祭では、有名プロ太鼓チームの曲で、高校生レベルでは演奏できない程の難しいものをコピーして、他校には真似できない演奏技術と、乱れない動きで観客を圧倒する作戦で勝利を得てきました。しかし、ここ数年、全国大会では郷土色とストーリー性のあるオリジナル演目が高く評価されるようになってきており、数年前から本校和太鼓部もその方向で取り組み始めています。



昨年の芸文祭では高槻の今城塚古墳を題材にして「暁の大王」を作曲し、芸文祭優勝。続く佐賀総文祭では惜しくも上位入賞を逃したものの、評価は「A」(全国上位6校)で、高い評価を得ることができました。今回の芸文祭で、当初は昨年の曲を再構成して演奏することを考えましたが、部員の中から先輩たちが作った曲ではなく、自分たち独自の演目をやりたいという意見が出て、検討したところ、全国の高校生たちが古典で習う伊勢物語の「芥川の段」にたどり着き、それをテーマとして部員たちが作曲した「恋歌(れんか)」で芸文祭に挑むことになりました。伊勢物語は、在原業平(なりひら)を主人公にして業平の数々の和歌を紹介する場面が多数登場します。業平と、後に天皇の女御となる藤

原高子(たかひこ)との駆け落ちの話は「芥川の段」に描かれており、二人のその身分違いの恋を成就させようという一途な思いは130年の歴史を超えて、今も人々の心を捉え、平安文学の代表作として、高校の教科書に載っています。大きな音を出す太鼓で、力強い戦いの場面を描くことは容易なことだと思えますが、業平と高子の「恋愛」という内面的で繊細な感情を太鼓で表現することはなかなか難しいことで、和太鼓部にとっては一つの挑戦でした。

曲の展開は、冒頭に業平作の百人一首の「ちはやぶる」の和歌を、女子の澄んだ声のコーラスをバックにして、男女二名ずつが生声で歌い、続いて琴の三重奏から、篠笛の三重奏が加わり、平安時代へのタイムスリップを表現します。そして格好いい業平をエイサー太鼓群が見せ、「芥川の段」やその後の二人の叶わぬ恋へのジレンマなどを表現する組太鼓の工夫された音とリズムの演奏。最後は、和歌を通して固く結ばれた二人の愛を力強い全体合奏で描いて終わります。観客席は和歌の静かな出だしに緊張感に包まれ、そのメッセージ的で平安世界に引き込まれ、中盤はストーリーを描く組太鼓の音やリズムの組み合わせに新鮮さを感じ、最後の盛り上がりは、迫力ある和太鼓の、希望にあふれた力強い演奏に打たれたという感じでした。

今年の芸文祭では、太鼓を最初から最後まで力強く打ち込むとか、高校生らしくスピード感のある元気な演奏が印象的だった中で、本校の「恋歌」の静かでしっとりとした落ち着いた音のある舞台進行と繊細な音にこだわった演奏は、特異な存在で光を放っていました。その特徴を最大限に發揮して、高知県で8月に開催される全国高校総文祭には上位入賞目ざして挑戦したいと思っています。

「第17回高校生がつくるふれあい冬まつり」に本校6つのクラブが参加

首席

1月11日(土)、高槻市立障がい者福祉センター(ゆ・あいセンター)で、第17回高校生がつくるふれあい冬まつりが開催されました。このイベントは、地域の障がいのある人やその他多くの人々とのふれあい・交流を目的に、市内の府立高校5校と支援学校の生徒が中心になって企画しています。今年も本校からは、生徒会執行部、吹奏楽部、軽音部、ダンス部、和太鼓部、家庭科部、イラスト部が参加し、「冬まつり」の企画・運営を通じて障がいのある人々や他校の高校生と

交流しました。年々盛り上がりを見せる本イベントは、今年も来場者数も950人と昨年より150人ほど多くの方が来場され、過去最高の参加者数となりました。エンディングでは、世界に「ただけの花」を部屋全体にびっしりと埋まった参加者全員が歌と手話で締めくくり、会場全体が一体となった瞬間でした。

第71回生徒生物研究発表会で発表!

生物部顧問

昨年11月23日、生物部は、2年ぶりに生徒生物研究発表会で発表しました。年に1度、大阪府下の生物系クラブが、研究報告や活動報告を持ち寄り発表・交流する機会です。今回は20校が参加しました。芥川生物部は、3年生が引退し、1年生7名で活動しています。が、活動報告部門で『芥川生物部活動レポート2019』を発表しました。



内容は、芥川の上流から下流まで6地点の水質調査とビオトープのプランクトン調査を中心に行いました。とくにビオトープで繁殖している絶滅危惧種のトチカガミは注目を集めました。この発表会参加の経験を土台に、今後さらに研究活動も充実させていきたいと思っています。



あくてビオトープに

絶滅危惧種トチカガミが繁殖!

生物部顧問

生物部が手作りでビオトープを造って、ちょうど10年目になります。今、ビオトープには、トチカガミという、ハート形の葉をもち白い花を咲かせる水生植物が繁殖しています。実は、トチカガミは環境省レッドリストで「絶滅危惧1類」に指定され、大阪では「絶滅の危機に瀕している種」なのです。自然

界で絶滅が心配される植物が、ビオトープで元気に繁殖している姿は、ビオトープの意味にもつながります。ちなみに、トチカガミの名前は、「トチ(スッポンの地方名)の鏡」からつけられたそうで、光沢のある葉が名前の由来です。昔の人々の豊かな想像力には感心させられます。ビオトープで自由に観察できますので、一度見に行ってください。



1・2年生 芸術鑑賞 好評でした!

特別活動指導部

2月5日(水) 1・2年生を対象に芸術鑑賞が高槻現代劇場で行われました。今回は、わらび座による『ミュージカル ジパンング青春記』。約400年前、慶長の大地震・津波が三陸を襲いましたが、そのわずか2年後、仙台から慶長遣欧使節団が出帆していききました。未曾有の自然災害に傷つきながらも復興を果たそうとする伊達政宗、東北の人々の姿を描いたミュージカルです。初めてミュージカルを鑑賞した生徒も多かったようですが、「役者さんの演技の迫力、歌やダンスのうまさ」に感動しました。「見ていて楽しかった。良い作品だと感じた」という感想が多く好評でした。これをきっかけに、機会があればミュージカルや演劇にも足を運んでみることをお勧めします。



「訂正とお詫び」

創立40周年記念誌のP19の芸術鑑賞2010年度 上方落語鑑賞 劇団等(誤) 笑福亭鶴瓶他 (正) 笑福亭銀瓶・桂小春團治 訂正してお詫びします。